

大館の歴史散歩

魚の保存食

食と生活を訪ねて ⑧

秋田の暮らしにもっとも密着した魚といえばハタハタ。秋田県では昔から大衆魚として親しまれてきた。佐竹公が常陸（茨城県）から秋田へ国替えのとき、ハタハタも一緒に日本海側へ移ってきたので「佐竹魚」という別名もあったというが、これは伝説で、ハタハタの歴史はもっと古い。海に遠い大館地方にも、米代川を行き来する川舟で運ばれた。

ハタハタは、冬季の貯蔵食・保存食とするのが主目的であるから、塩漬けや麴漬けが発達したのは当然であり、海に遠い大館地方でも一軒の家で十箱も二十箱も買いつめるのが珍しくなかった。そして、すしハタハタや塩漬けとして膳の皿料理に、酒のさかなに、ハレの食に、日常食にと食べる頻度は高く、味や外観はその家々によって特色があり、主婦の自慢料理の一つであった。

すしハタハタの作り方は、ハタハタの腹わたを取り除き、水を張った半切り桶に二、三日入れて赤つゆを取り、水を切る。炊いたご飯の荒熱を取ったものと麴を合わせる。すし桶に軽く塩をふり、ご

飯と麴を合わせたものを一寸（約三寸）くらいの高さで入れ、手できっちり押しつけて上にハタハタを置く。これに酒（ごぶろく）をちよつとふりかけ、再びご飯と麴をのせてきっちり押しつける。これを繰り返して五段くらい重ね、最上段はご飯と麴に塩である。笹の葉があればそれで覆い、落し木ぶたをしてきっちり押しつける。最後に、木ぶたと桶のすき間に熱湯を通したきれいな新わらを回し、重い石をのせてごみが入らないように大きな紙をかぶせてしぼる。

二日ぐらいで水が上がり、十日から二週間ほどで表面に膜が張る。よい香りがしてくれば食べごろである。酒のさかなにはそのままがよいが、さつと焼くとなおおいしく、白いご飯に合う。

鉄道が開通する以前は海に遠い大館地方であったが、鉱産物を運ぶ舟が頻りに往来し、返り舟には日用品が積み込まれた。また、大館、扇田、二井田へは月二、三回市日に合わせて市掛舟（市に出す物資を運ぶ手こぎ舟）が荷揚げしたので、海産物もかなり出回り、

米や大豆などと交換できたのでよく利用されていた。

明治三十八年の奥羽本線開通以後、舟運は凋落するが、鉄道全盛時代を迎えハタハタはより多く出回るようになる。しかし、昭和五十年代に入るとハタハタの漁獲高は激減し、ここ数年は禁漁措置が取られるなど、大衆魚の王座を降りざるを得なくなった。

冬の間の貴重な保存食として、また、長い年月「食」の文化として受け継がれてきたハタハタが、家庭の日常から消えつつあるのは実に寂しいことである。

参考文献・「聞き書秋田の食事」「ハタハタ」みちのく郷愁の味東北

市役所史跡探訪会

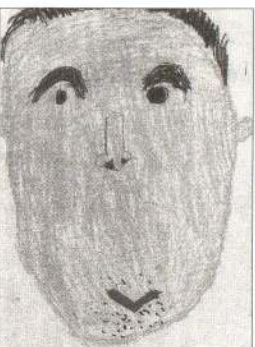
ちびっこギャラリー おとうさん



ささきりゅうたろうくん
サンタさん、ぼくはコンピューターがほしいです



ひかげ ゆきちゃん
いっしょにつみきあそびしてくれて、やさしいの



ひかげ ともよしくん
サッカーしてくれるし、だいすきなんだ

釈迦内保育園



クイズ 広報 おおだてがヒント

- ▽問 題
- ① 大館市が、特定行政庁として建築確認事務などを取り扱うのは何年何月から?
 - ② 親と子の絵本を楽しむ会。会場はどこ?
 - ③ 中央公民館の「新春書き初め会」。受け付けは12月何日まで?
 - ④ ごみ収集を休む期間はいつからいつまで?
 - ⑤ 大館の方言でシルモチといえは何のこと?
- ▽応募方法
- はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え(例①—②—)を書いてご応募ください。
- ▽締め切り
- 12月26日(月) 当日消印有効
- ▽応募先
- 〒017 大館市宇中城20番地 広報おおだてクイズ係
- ※全問正解者の中から抽選で5人に、特製のテレホンカード(秋田犬)を贈ります
- ▽11月16日号の答え
- ① 38(31も正解とします)
 - ② 277人
 - ③ 3期
 - ④ 8日
 - ⑤ 420円
- ▽11月16日号の当選者
- ・ 福士絢香さん(片山3丁目)
 - ・ 佐藤祐之さん(出川)
 - ・ 中村光江さん(山神台)
 - ・ 下山由加さん(片山3丁目)
 - ・ 工藤美保子さん(板石)
- ※応募総数59、全問正解者57